

実践!! 輸血検査の問題解決

演題1: Case1 血液型検査編

藤田 沙耶花

いわき市医療センター 医療技術部 中央検査室

ABO血液型はオモテ検査とウラ検査を実施し、双方の結果が一致する場合に血液型を判定できる。しかしながら、日常の検査の中では予期せぬ反応によってオモテ・ウラ不一致やオモテ検査またはウラ検査が判定できないなど、血液型が判定できない事例に遭遇することがしばしばある。血液型を判定するためには患者情報の収集や追加検査が必要となるが、今回の教育講演では、日常検査で遭遇する可能性のある症例を提示し、予期せぬ反応の原因を推定するための考え方や追加検査の内容について解説する。

演題2: Case2 不規則抗体検査編

櫻澤 貴代

北海道大学病院 検査・輸血部

不規則抗体検査では様々な反応性に遭遇することがあり、検査に苦慮することがしばしばある。特に、すべての赤血球に対して凝集がみられる場合は、患者背景も含めた様々な原因を考えて検査を進めていく必要がある。

【症例】不規則抗体スクリーニングにてPEG-IATでスクリーニング赤血球1～3およびDia赤血球すべて(2+)の反応がみられた。不規則抗体スクリーニングですべての赤血球で反応がみられた場合、考えられる原因としてあげられるのが自己抗体、高頻度抗原に対する抗体、複数抗体、抗CD38分子標的薬による影響である。本講演ではすべての赤血球で反応がみられた場合の検査の進め方や考え方について紹介する。